

## ★はじめに

ぷよぷよの対戦中、各プレイヤーには様々な思惑があると思います。

「対戦中どのようなことを考えるべきか」例を書き出すに当たって、今回講座は僕個人としての考えになってしまい、一般論ではあるかどうか分からない内容になってしまいますが、思いついたままに書き出してみようと思います。また今回文章主体になってしまうことを予めお詫びいたします。

## ★展開によって異なる思惑の違いと、各展開における共通事項

序盤、中盤、終盤それぞれの場面に様々な展開がありますが、一貫して考える事の一例として、「同時消しによる潰しがあるかないか？」というポイントがあります。

ここはプレイスタイルによっても優先順位が若干違ってきますが、一般的に上位プレイヤーの考えることとしても優先度は高いと思われます。これに気を付けていないと一瞬で試合が終わってしまいます。

またその場面で潰しがあったとすると、次の場面に備えて連想のように次々と考えることが変わっていきます。

例: [ 相手側に潰しができそう → 潰しの大きさは? → こちらの構えはどうするか? →  
→ このタイミングで打たれても大丈夫か? → 打ってこなかったら? → … → ]

異なる場面によって分岐も行われます。草の根の形のように分岐と連想が延々と続いていくイメージでしょうか。上の場面で潰しがなかった場合、枠組みの中のことは考えなくてもいいわけです。

基本的には「これをやってしまうと負けるな」といった、その負けのビジョンが見える場面から逆に考えていくと「考えるべきこと/意識すべきこと」として認識できるようになります。タブーの知識は経験を積んでいくと種類が増えていくのでどんどん試合をこなしていきましょう。以下に例をいくつか上げてみようと思います。

[↑ 即座に対処すべき ↑]

### <即死級>

- ・ 3色以上の同時消し2連があるか
- ・ すけぞー折り返し

### <とてもつらい>

- ・ 2列以上のイバラ(単発同時消し)
- ・ 折り返しを狙われた潰し

### <まあいいでしょう>

- ・ 序盤の置きミス
- ・ 中盤における配色の偏り

[↓ 直ちに影響はない ↓]

☆それぞれの場面に対しての未然に防ぐための防止策、または起こってしまった場合の防護策などを考えてみよう!

僕自身が過去に考えていた、中盤に意識すべきこととしては、・どこから崩してくるか?・副砲はどれくらい連鎖があるか?(実質副砲連鎖量を測る)・連鎖はどこかで止まっていないか?などありました。

## ★要因の種類

形と配色によるもの・ミスによるもの・相手の場面によるもの・知識によるもの・想像(予想)によるもの など。経験を積むことによってイメージトレーニングも捗ります。

また環境によっても意識の種類・優先度は変わってきます。(大会など)

## ★まとめ

考えることは個人のぷよの理想像があって初めて明確に定まります。

ただし、意識することを多くし過ぎると全体のスキルポイントが溜まりにくくなってしまうため、あまりよくばらず1つずつ確実に習得できるようにしていきましょう!

こういった思考を張り巡らす場面の量が多くバランスが取れているからこそ、ぷよぷよはパズルゲームとして優秀なものかもしれません。